



# Via Latina 22

2025 年 12 月 348 号

## 総本部よりのお知らせ－マリア会

### 内 容

コートジボアール従属地区での司祭叙階式 .....	1
日本地区の新しい地区長の任命 .....	2
USA 管区の新しい管区長と副管区長の任命 .....	3
シャミナード国際神学校、校長の交代 .....	4
マリアニスト家族世界評議会 .....	4
不屈の人 福者ギョーム・ジョゼフ・シャミナード .....	5
Enrique Llano の死亡通知 .....	8
福者シャミナードへの 9 日間の祈り .....	9
Faustino .....	9

### コートジボアール従属地区での司祭叙階式

Claudel Noël 士は、2025 年 11 月 15 日、土曜日、アビジャンの国民的マリア聖堂での教皇大使、Mauricio Rueda Beltz 大司教司式のミサの中で、司祭に叙階されました。



Mauricio Rueda Beltz 大司教による授手

叙階式のハイライトは次のようなものでした。**按手**：教皇大使によって行われた叙階の秘跡の本質的行為；**平伏**：全面的な放棄のしるし；**祭服の授与**：ストールとカズラの着用。

多くのマリア会員と信徒マリアにスト共同体のメンバーがこの式典に出席しました。ミサの後、修道院で昼食が提供されました。

次の日、11月16日、日曜日、Caudel Noël 神父はマリア聖堂で初ミサ、感謝の祭儀を捧げました。この初ミサは、彼の感謝を表明し、そのすべての仲間たちと喜びを共にする機会でした。

私たちは Caudel Noël 師の司祭叙階を神に感謝し、彼の役務の一步一步に同伴して下さるようおとめマリアにお祈りします。

---

## 日本地区の新しい地区長の任命

あちこちの行政単位で責任者の交代が起こっていますが、日本地区でも、重要な交代が行われます。総長は、評議員会の同意を得て、**洗礼者ヨハネ、青木勲師**を2026年4月1日付けで新しい地区長に任命しました。青木師は、二期6年間の任期を終える**市瀬幸一師**の前任者として地区長を務めましたが、再任されることになります。



私たちは、地区長の任期中に果たされたその大変な仕事とリーダーシップを、市瀬師に感謝します。また私たちは、この重要な責任を再び引き受けることに同意された青木師にも感謝します。彼らがこの交代の時期を乗り越え、将来を見据えるにあたり、日本地区を皆さんの祈りで支えてくださるようお願いします。

日本地区には、5つの共同体に合計25人の会員（12人の信徒修道者と13人の司祭修道者）がいて、4つの学校（長崎の海星学園、大阪明星学園、札幌光星学園、東京の暁星学園）を運営しています。

**洗礼者ヨハネ、青木師**は兵庫県で生まれ、1963年に初誓願を宣立し、1967年に東京で宗教社会学の学士号を得ました。そして1976年に叙階されました。1978年から2011年にかけて、彼はブラジルで種々の役職で奉仕しました。2011年～2020年、日本地区長として奉仕した後、修練院長を務め、現在は東京、暁星学園の理事長の職にあります。現在彼は東京の暁星修道院共同体で院長を務めています。



## USA 管区の新しい管区長と副管区長の任命

USA 管区のメンバーへの意見聴取後、総長は、彼の評議員会の同意を得て、Ed Violett 士を次の管区長に、そして Bob Jones 師を副管区長に任命しました。二人の一期目は 2026 年 7 月 1 日から始まり、任期 5 年です。彼らは、管区長 Oscar Vasquez 師と副管区長 Bernie Ploeger 士を引き継ぐこととなりますが、この二人は 2018 年からの任務を務めた後、第 2 期を終わることになります；私たちは過去 8 年間の彼らの堅実な指導力と寛大な奉仕に感謝します。また私たちは、管区生活のこの重要な責任を受諾されたことに対して、Ed Violett 士と Bob Jones 師にも謝意を表明します。この交代の期間に、また次の管区評議員会の他のメンバー任命に当たって識別が続くときに、USA 管区を皆さんの祈りで支えてください。



USA 管区は、アイルランド、メキシコ、プエルトリコ、ハワイと USA 大陸を横断する 24 の共同体の 179 名（130 名の信徒修道者、49 名の司祭修道者）で構成されています。彼らの事業には、3 つの大学、17 の学校、3 つの小教区、3 つの黙想の家、そして、例えば青少年司牧、信仰と霊性の養成、正義、平和、被造界の保全など、広域にわたるプログラムが含まれています。



Ed Violett 士はグアムのアガナで生まれ、テキサス州のエルパソで育ちました。彼は 1982 年に初誓願を宣立し、聖マリア大学で財務経営の学士号を得て、ノートルダム大学で経営学修士号をとり、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで「社会政策と社会運営」の博士号を得ています。彼の職務としては、ローマ、インド、そして USA でのリーダーシップと国際的奉仕が含まれます。ルイジアナ州、バトンルージュのアワー・レディ・オブ・ザ・レイク・カレッジの学務担当の副学長になる前、彼は 2006 年～2013 年の間ローマ総本部で財務局長を務めていました。現在、彼はハワイのマリアニストセンターの副センター長で、管区長評議員会のメンバーであり、ハワイ、ホノルルのカラエポハク・マリアニスト共同体に属しています。

Robert Jones 師はインディアナ出身です。彼は 2007 年に初誓願を宣立し、2015 年に叙階されました。彼はデイトン大学で数学学士号を取得し、ボストン大学で司牧神学修士号を得ています。彼はローマのマリアニスト国際神学校で学び、幾つかの学校や小教区で働きました。司祭叙階後、彼はオハイオ州、デイトンのシャミナード・ジュリアン高校で数学を教え、また学園付司祭として奉仕しました。最近、彼はスペインのカミノ・



デ・サンチャゴへ 500 マイルの巡礼を行いました。現在、彼はデイトン大学の大学付き司祭であり、管区評議員会のメンバーです、そしてデイトン、チェンバーストリートのマリアニスト共同体に属しています。

---

## シャミナード国際神学校、校長の交代

来年 7 月に、Miguel Ángel Cortés 師はローマのシャミナード国際神学校の校長としての第 2 期目を終了します。それぞれの行政単位との識別を行い、総長評議員会は Michael Otieno Ochieng 師を第 1 期、3 年間（2026–2029）の任期でシャミナード国際神学校の校長に任命しました。私たちは彼が快く引き受けてくれたことに対し、また、この任務のため彼の派遣を承諾した東アフリカ地区にも感謝します。

Miguel Ángel Cortés 師は彼の 6 年間の責務において神学生たちとの素晴らしい職責を果たしてくれました。一貫性のある手法、厳密さ、親切さを持って、彼は助祭職と司祭職に向けた準備において神学生たちに同伴しました。彼は、混合構成における司祭職の実践に関する私たちの素晴らしいカリスマの伝統を神学生たちに伝達しました；彼はまた神学生たちを彼らの司牧的準備、すなわち各自が自分の行政単位という状況で続行しなければならない準備の面でも指導しました。



私たちは、マリア会全体のためのとても重要なこの素晴らしい奉仕に対して、Miguel Ángel 師（“Manque”）に感謝します。彼は自分の管区であるスペイン管区で自分の役務を続けることになりますが、私たちはこの 6 年間、マリア会に Manque 師を派遣して下さったことに対して、スペイン管区に感謝いたします。



Michael (Mike) June Ochieng 師は 1971 年ケニアで生まれました。彼は 1998 年に初誓願を宣立し、2004 年に終生誓願を宣立しました。ローマでのシャミナード国際神学校とグレゴリアン大学での養成期間を経て、彼は 2007 年に司祭に叙階されました。2013 年から 2016 年にかけて、彼はローマの教皇庁立ラテラノ大学で教会法の修士号を準備しました。ケニア、モンバサの小教区で奉仕した後、彼はナイロビで学生修道者の担当をする前、マラウイ、リロングウェの新しい高校で学園付き司祭でした。私たちは、コートジボアール従属地区からの副校長、Hervé Dagbo 士と協力して、Mike が遂行する新たな職務のため、彼に私たちの祈りを約束します。

---

## マリアニスト家族世界評議会

11 月 7 日～9 日、マリアニスト家族世界評議会はローマで会合を持ちました。例年のよ



うに、今年もまた、私たちは共に過ごし、共に祈り、共に生活し、またマリアニスト家族として私たちに関わる様々な課題について話し合うことに、この3日間を当てました。

2つの大きなテーマが私たちの考察の中心でした。最初のテーマは、若者たちの呼びかけに耳を傾けることでした。このテーマは、私たちの伝統において、またごく最近の総会の間、鳴り響いていたからです。

私たちの会議の大部分を占めていた2番目のテーマは、これからの4年間（2026－2029）のためのマリアニスト家族世界評議会の目標を入念に作成することに当てられました。私たちは、これら目標がそれぞれの地域のマリアニスト家族にとってインスピレーションとして役立てられるし、そして、このような訳で、各枝はこれら目標を自分たちのメンバーに伝達してきたものと信じています。マリア会員はこれらを数日前に受け取ったところです。



最後に、私たちは私たちマリアニスト家族の多様で共通のテーマや祝い：マリアニストのマグニフィカ、マリアニスト家族の典礼カレンダー、2026と2027の世界祈りの日；2026年マリアニスト家族の保護の祝日、についての話し合いと計画作成に時間を当てました。

---

## 不屈の人 福者ギョーム・ジョゼフ・シャミナード

「カトリック教会の教え」に見られる剛毅の徳の定義をゆっくりと読み、それから、この定義は、ある意味で、言葉による私たちの創立者の描写ではないかと自問する価値があります。

「剛毅とは、困難にあつての堅固さ、善の追及における粘り強さを保証する倫理徳である。剛毅の徳は、道徳的な生活において誘惑に抵抗したり、困難を克服しようとする決意を強める。剛毅の徳は、人が恐れを、しかも死の恐れさえも克服し、試練や迫害に直面するようにしてくれる。それは、人が信仰を擁護するために自分の命を捨て、犠牲にする覚悟さえさせる。」（1808条）



アーティスト：ルイス・ロンジエド、  
バレンシア、スペイン

これらの文章は、多分、シャミナード神父がその長い人生で遭遇した様々な困難や障害、彼が冒した危険、彼が苦しんだ教会内外からの迫害、そして、彼がこれらすべての困難や障害を生き抜いた一貫性や忍耐を、わりと素早く心に思い浮かばせたことでしょう。

フランス革命は福者シャミナードの人生を 180 度、転換させました。この革命がなければ、彼は、多分、ミュシダンの聖シャルル司祭会のメンバーとして、深刻な混乱や困難な事態もなく、この学校の先生や会計係として人生を送ったことでしょう。30 歳の時、彼は「聖職者市民法」への宣誓を拒んだことで、20 年にも及ぶその人生の大変重要な年月を過ごした学校を離れて、両親とともにボルドーに移りました、そして不確かな将来の待つ新しいステージを開始するのです。彼は最悪の恐怖政治の時期を地下に潜り、自分の命を危険に晒しながら、司祭職を遂行しました。総裁政府下の 1797 年に、彼は外国への亡命を余儀なくされ、サラゴサで 3 年間を過ごしました。亡命する直前のラムルス嬢に宛てた手紙で、彼は自分の心情を次のように述べています。

「親愛なる娘よ、死ぬのは一度限り、と言われていています。そのとおりです。しかし、み摂理によって私たちを導かれる神は、このことを私たちに知らせ、私たちを備えさせようと、どれほど多くの教訓を私たちにお与えになっていることでしょう。そして、それらの教訓の一つひとつが、ある意味で死を要求しています。自分を飲み込んでしまいかねない混乱した出来事の中にあって、忠実な靈魂は何をしたらいいのでしょうか。信仰によって泰然としていることです。信仰は神の永遠のご計画を崇めさせながら、一切は神を愛する人々の利益に転じるものであることを私たちに保証します。」  
(手紙 第一巻 No.10)

亡命から帰国すると、彼は非常に活発に活動を開始し、大変重要な意味を持つ司牧計画、ソダリティ（男女修道会、ミゼリコルド会支援、先生を養成する師範学校などの基盤となった）を設立しましたが、これには非常に熱心で継続的な事業が含まれていました。これらの司牧計画が確立し、良い実りを結ぶと思われた時、1830 年の 7 月革命が勃発し、それまで非常に多くの努力で築き上げられてきたすべてのものを継続することが危うくなりました。新しいルイ・フィリップ王の治世下、マドレーヌ聖堂の近くにあった彼の家は警察による徹底した監視下に置かれました。

69 歳で、彼は活動を再び軌道に乗せなければならませんでした。しかし、次の 5 年間でアジャンで静かに暮らしました。ラン神父への手紙で、シャミナード神父はその 5 年間でどのように暮らしているかを説明しています：

「私たちは何と新しい世界のただ中にいることでしょう！ 私はフランスにいますが、外国にいるような気がします。もう何を言い、何を行ったらよいのか、ほとんど分かりません。私としては、先走って事を起こすよりも、これから私に起こることをじっと待つことを選びます。そして、毎日を聖なるおとめマリアにゆだねる以外に方策を持ちません。」(手紙 (第二巻 No.575))

「私たちは進めば進むほど、障害が増えてくることを覚悟しなければなりません。神は賛美されますように！ 私たちが神に仕えるためにできることをすべて行いましょう。軽率なことはしないように努め、平静にしていることです。黙示録 14,12 に、聖なる者たちの忍耐の時について言われています。それが現在の時に当たるのか、私は知りません。しかしそう取っても間違いではないでしょう。」（手紙 第 3 巻 No.588）

1839 年 8 月の黙想会の説教師への手紙は危機の克服を示しています。説教師たちが会員を「私たちの聖なる使命の持つ素晴らしさと特別な性格にふさわしい者」にするという目的をもって、彼はこの手紙を書いています。78 歳となったシャミナード神父は、力強さと熱意に満ちた人であり、次のような気持ちを自分の息子・娘たちに伝えたいと熱望する老人です：

「本会の事業は偉大で素晴らしいものです。それが普遍的であるのは、「この人が何か言いつけたら、その通りにしてください」と私たちに仰せになるマリアの宣教師だからです。そうです、私たちは皆、マリアの宣教師なのです：私たち一人ひとりは聖なるおとめマリアから、世にいる私たちの兄弟の救いのために働く任務を与えられているのです。（手紙 No.1163）

総長評議員会、様々な司教たち、更に教皇庁との対立に満ちた 1840 年代の 10 年は、創立者の不屈の精神を決定的に試すことになります。それは苦しい経験でしたが、多分、最終的に彼の諸徳の有する宝に光を当てることになる試練でした。この困難な時期の彼の経験に関して、いくつかの手紙で彼が書いたものを読みましょう：

「私の信頼は、私がその人のために生き、そして死にたいと望んでいる主と、その尊い母にあります。」（手紙 No.1308）

「親愛なる息子よ、私は年を取っていっており、間もなく、主イエス・キリストが最初の革命の前後の私の人生の歩みにおいてわたしに与えようと計画されている使命について、主に報告するために行くことになるかと分かっています。私は大きな試練を経てきましたが、最大のものは、「あと一步で」、間一髪で死刑台から私を救ってくれた 1793 年の試練（薄い一枚の板切れ）ではありません。1844 年の試練は、はるかに深刻なものです。神に賛美！ マリアに栄光！（手紙 第 6 巻 No.1313）

「私は決して攻撃したことはなく、ただ、抵抗してきただけのことでございます。と申しますのは、私はマリア会の創立者、またマリアの娘の会とその第三会の創立者でございますが、このような創立者として、私の良心がこれらの会を見捨てることを許さなかったからであります。見捨てることすれば、私の側からの明白な裏切りとなりましょう。（手紙 第 6 巻 No.1369）

「私は自分の味方としては真実と良心しか持ちません。神がマリア会を保持するこ

とをお望みならば、私は極めて強いはずで、自分の極度の弱さの中で、また卑しめられた状態にあっても、次のように言うことが出来るでしょう：「私を強めてくださる方のお陰で、私にはすべてが可能です（フィリピ 4 章 13 節）」（手紙 第 6 卷 No.1418）。

「あなたは平和について話しています。・・・しかし、似たような状況の中で、主は次のように言われませんでしたか：「私は平和ではなく戦いをもたらすために来た」。どんな戦いでしょうか。反乱、謀反、無政府状態と呼ばれるようなものでないのは確かで、むしろあらゆる不正に対して、攻撃するのではなく防御する戦いなのです。主が、「私の平和をあなた方に与える」と仰せになったその平和は、まさしく、人間が反対と迫害のただ中であって断固その義務を果たし続けるときに、その人の心に打ち建てられるものであって、そのような反対や迫害はこの平和を減じるどころか、ますます強めるのです。」（手紙 第 7 卷 No.1480）

賞賛と感謝をもってこの不屈の人、シャミナード神父に近づくのに、これらの筆致で十分です。彼は、勇気の源を自分自身ではなく、その事業を実行することを自分に委ねられた主とマリアに見出していたのです。シャミナード神父が深く生きたこの剛毅の徳を私たちと分かち合ってくださいよう、彼に願ひましょう。



総長、David Fleming 神父はシャミナード神父の列福令の公布に対して  
教皇聖ヨハネ・パウロ 2 世に感謝を述べます

## Enrique Llano の死亡通知



11 月 14 日、Enrique Llano 氏がマドリードで死去しました。Enrique Llano 氏は 1993 年チリーの国際会議で選ばれた MLC の初代会長でした。加えて彼はまた、1996 年評議会の最初の会議で選ばれたマリアニスト家族世界評議会の初代議長でもありました。彼の献身と心からの信心はその初期時代に MLC と世界評議会に大きな飛躍をもたらしました。彼が安らかに憩いますよう祈ります。



### 福者シャミナードへの 9 日間の祈り



私たちは、重篤な ALS（筋委縮性硬化症）に冒された Mrs. Erika の病氣治癒のため福者シャミナードに 9 日間の祈りをお願いします。治療後の医師の経過予測は明るくありません。この意向はペルー特別地区の地区長 Victor Müller 師から要請されました。

## Faustino

私たちの読者への注意喚起：この発行版をスタートに Via Latina は尊者 Faustino の列福に関する公表記事を定期的に読者に提供します。これらはネットリンクにて 3 か国語で入手可能です。[Bulletin 第 42 号](#) これらを読んでシェアするよう勧めます。

### 最近の総本部通信

- 訃報：25 号
- 11 月 20 日：マリアニスト家族世界評議会からのメッセージ、3 か国語で全マリア会員に送付

### 総本部日程

- 11 月 24 日－12 月 14 日：総長評議員会がイタリア地区を訪問



総本部共同体とシャミナード国際神学校共同体は、私たちの全ての兄弟姉妹たち、かれらの協力者と家族の皆さんに、クリスマスのお祝いと幸ある新年の挨拶を申し上げます！